

今日の悲しさは、夢の中にも、夢を見るこゝちてろすれ。昔ある人は、しばしのわかれを惜みて、

一日たに見ねはこひしき君の去あは年の四とせをいかてすこさん
といひ志こともありしかばいはんや。今日は、

一日たにこひしき君に別れつゝ年の三とせをいかてすきけん。

かきくらす涙に、そぼちつる袖の零に文字も、をさゝゝ、しづけあく、消ゆはてゝ、だゞ、
かりこもの思ひ亂れたるのみにこそ。ろもゝゝ、明治の御稟威は、いよゝゝ、教育の光
に輝き、學校の榮は、ますゝゝ、五百のをえへ子に満ちあんとす。ろのこゝらの、をしへ
子たち、うち集ひて、まめやかに、けふのみまつり、仕へ奉るさまを、安らげく、きこしめ
して、この始ある人々の、さながら、終をよくせんことを、天翔りても、見そあはし、守り
給へかし、とをしへづかさの、じりへを汚せる園哲雄謹々額つきて申す。

贈從軍友人

講師　湯原　元一

時事有感

秋月　胤繼

何時快劍斬君讐。八道風雲隻手收。閔族初、堂堂大陸跨兩極。六大洲中最廣域可憐。西無經國志。袁奴元有爲身謀。亂餘天地秋將、夷奪掠餘僅存日支兩三國。前門有虎後門老。劫外江山月亦愁。莫吊英雄征戰跡。僕城狼東洋風雲轉。悽愴沈思到此腸欲斷。須厚隣誼警非常。愛親覺羅何碌碌。乃利少弱拋城下水空流。

敵堂堂王者師。連戰連敗不能支。先如脫兔

第四紀念會寄懷于熊城學友諸君

後處女滿朝狼狽我解頤韓山清虜已掃屏

在帝國大學隈本繁吉

我兵方及盛京省王師出沒如鬼神兩都陷落

硝烟簇彈雨漲韓山地渤海鴉虜無道非一日衰龍赫怒膺又懲真是空前絕後業

伸聞說外夷恐我勢將容啄使謀和親和親從來屢誤事勿安小成遺後累於今輕率失

神州黎庶報國忙獨憶天下青衿子依然對

此機他日囁贍復何暨速服清虜彼已平東洋和平乃可成我於是乎爲盟主永遠相戒鶩蚌爭可期斃兮可期斃既期斃兮事乃濟苟以此心對外夷豺狼雖猛何能噬焉呼高

荒嗚呼驅人躍筆入胡塞赳夫拋身屠豺狼旣聞尙嗣勞奔命又見老幼饋壺漿獨憶軀健全措大漢晏然吟誦翰墨揚國恩由來

忘吾賜寄語熊城六百濟々士君不見同心如蘭令校運昌昌校運增國光千秋万古幾不

高乎岳如今更覺凌九蒼東西客雲山茫感國恩共無量遙祝第四紀念會幾多感慨斷

詩
梧園先生曰結末最妙足使英露抱愧虔服感服者詐謀豈敵誠
東洋君子國魏魏六洲囊所據道兼義所行公與明制驕因烈志援弱卽慈情虛喝彼何者詐謀豈敵誠

在帝國大學白河次郎
高堂占得萬斯基圖校聲名逐日馳學苑好風兄弟講壇和氣父薰兒修文事逸未曾慣用武處難豈敢辭此日熊城秋更靜龍南

龍北仰威儀。

稻園先生曰合作述實難得這平穩

秋の夜よめる

稼堂

熊本ある第五高等學校の開校紀念
會を祝ひてよめる

在帝國大學 受樂院義春

年ごとに立ける小松にさかえゆく

學ひの園の色ろ見えける

谷川のあかれをよもにつとへきて

すみやまさらむしら川の水

ゆふされは天の川風ふきちらて
庭のさゝはら音さやくなり
をりにふれて 巴城

もろおしの醜のは草も日の本の

刀の風にあひきやはせぬ

木の下に夢もむすはぬ武士の

批評

活道德經——『養神』を讀みて

溪川學人

前號の紙上に『養神』といふ一篇あり、小原君の筆なり、議論正確、文辭も亦爽麗なり、讀みて大に快を覺ゆ、おのれ今此に記さんとするもの、或は夫の彼の詩の一句は彼の詩の一篇なり、Every epithet is a text for a canto. といへる笑を買ふが買はぬか知らされども、さにかくわのれに一筆をかへ給へ。

おのれ、わねてより天の聲をいふ言を聞けり、されど其心は知らざりしが、或夜徒然なるまゝ例の古歌ごも打ち誦してありけるに、ゆくなりなく思ひあたる處あり、其れより一二日をへて花見にいだしに、いよいよ天の聲をいふを知りぬ。眞原益軒翁が大和俗訓に仁は天地の心なりといへり、實に天地に心あるなり、貴賤を離てず能く我を愛す、此愛唯我を娛ばしむるには